実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

（医療専門課程 理学療法学科 昼間部）令和５年度

分類			授業科目名	教員名・授業科目概要・目的	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	
○			基礎理化学	板子　伸子/倉橋　智 理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、前半は理学療法を学ぶ上で必要な理科系知識を振り返る。後半は理学療法士に特に必要となる力学について物理学的な基礎知識から学び、それをどのように用いて人体の運動を理解するのかを手順に従って学ぶ。	1前	30	2	○			○		
○			コミュニケーション論	大和田 和彦/倉橋 智/板子 伸子/増田 岳彦 医療従事者のコミュニケーションは、チーム医療の要であり、患者とのコミュニケーションは、治療効果や患者満足度に大きな影響を与える。本科目では、理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、コミュニケーションの基本的スキルを身に付ける。演習及び傾聴の意味を理解し、医療人・社会人として必要な基本的態度を学び、コミュニケーション能力を身につける。	1前	30	2	○			○		
○			人間発達学	増田　岳彦 理学療法士として一般病院18年間の実務経験を活かした授業で、子どもの発達を通し、運動獲得の過程を学び動作獲得のための運動療法実施のための背景に役立つように学習を進める。運動獲得と心身の成長について学び関わり方について説明できるようになる。	1前	15	1	○			○		
○			情報統計論Ⅰ	大和田　和彦 理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、パソコンを用いた報告書を作成する能力を身につける。また、理学療法実践者として、先人たちの記述した論文を検索できる。	1前	15	1	○			○		
○			情報統計論Ⅱ	大和田　和彦／増田　岳彦／板子　伸子 理学療法士としてそれぞれ10年以上の実務経験を活かした授業で、理学療法実践者として臨床に活かす統計学について解説する。大量のデータの中に存在する法則性を見出し、それらを解釈し意思決定に役立てることができるために、必要な基本を学ぶ。	1後	30	1		○		○		
○			基礎運動学Ⅰ	市川　真莉那 理学療法士の臨床における評価・治療の土台となる運動器の学問である。理学療法士として総合病院5年間、診療所5年間の実務経験を活かし、以下の授業を行う。 ・骨、筋肉、靭帯、その他の軟部組織からなる関節構成体の動きの仕組みについて基礎から学ぶ。 ・上肢・下肢・体幹の関節運動の仕組み、および、筋活動と運動や姿勢との関連について知識を深める。 ・小テストを複数回実施し、知識の確認を行う。	1前	30	1		○		○		

○			基礎運動学Ⅱ	市川　真莉那 理学療法士として総合病院5年間、診療所5年間の実務経験を活かした授業で、身体の運動、動作をそれを生じる力やトルクの視点で説明する力学の一分野である身体運動学（キネシオロジー）や各関節の運動学を通して、内力外力、モーメント、支持基底面等について学ぶ。	2 前	30	1		○		○		
○			医療基礎統合論	倉橋 智/板子 伸子/市川 真莉那/矢作 浩 理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、これまで学んだ科目（特に解剖学・生理学・評価学）の学習をフォローする目的で概略を学び直す。さらに3年後の国家試験を見据え、これまで学んだ科目の国家試験問題を解き知識の定着を図る。	1 後	60	2		○		○		
○			人体構造機能学Ⅱ	姉帯　飛高 理学療法士として一般病院2年、介護老人保健施設3年の実務経験を活かし、理学療法の臨床において必須となる運動器（骨・関節・靭帯・骨格筋）の解剖学的特徴を解説する。	1 前	60	4	○			○		
○			人体構造機能学Ⅲ	姉帯　飛高 理学療法士として一般病院2年、介護老人保健施設3年の実務経験を活かし、理学療法の臨床において必須となる神経系（中枢神経系、末梢神経系）ならびに内臓系（循環器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器）の解剖学的特徴を解説する。	1 後	60	2		○		○		
○			人体構造機能学Ⅳ	市川　真莉那 理学療法士として総合病院5年間、診療所5年間の実務経験を活かした授業で、循環器、呼吸器に関する構造と機能を学び、理学療法実践者としての基礎的な知識を身につける。	1 後	15	1	○			○		
○			人体構造機能演習	倉橋 智/大和田 和彦 理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、人体構造機能学で学んだ骨・靭帯・筋・神経・動脈について、模型のデッサンや触診技術を通じて、周囲の組織との位置関係をより深く学んでいく。 また、触診を演習するに至っては、理学療法士としてのコミュニケーションの一端も学んでいく。 ・実技テスト・ミニテストを数回実施し、理解・到達度の確認を行う。	1 前	30	1		○		○		
○			整形障害論	本持　英児 理学療法士として一般病院12年間、介護老人保健施設を含め高齢者総合福祉施設5年間の実務経験を活かした授業で、リハビリテーションで対象となる運動器障害の整形外科疾患の病態と治療について理解を深めていく。	2 通	60	2		○		○		

○			内部障害論	関　良平 理学療法士として老人保健施設、老人福祉施設10年以上の実務経験を活かした授業で、内部障害について解説する。内部障害は、外傷や脳卒中後の障害の様には見えないで始まり、ある程度進行して初めて発症する。しかも、循環器、呼吸器疾患は分かりやすいが、代謝疾患、免疫疾患、多臓器疾患、DICなどは全身疾患である。これらを一つのまとまりある疾患として理解し、さらに高齢化も考慮し社会参加を促進することを目的とする。	2 通	60	2		○				
○			神経障害論	板子　伸子 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設3年間の実務経験を活かした授業で、神経障害の患者の症状の理解とリハビリテーションの関連性について理解を深める。	2 通	60	2		○		○		
○			発達障害論	小松　昌久 理学療法士として肢体不自由児施設22年、小児専門病院3年の実務経験を活かした授業で、種々の疾患の発症要因と病態を理解できる。また、頻度の高い小児疾患の病態と疾患の特徴を理解し、それらに対する対応を系統的かつ全人的に学ぶ。さらに、障害を有した小児に対する医学的な評価法と理学療法の概略を学ぶ。小児期の各疾患治療・療法を通じてチーム医療の重要性を学ぶ。	2 前	30	2	○			○		
○			老年学	矢作　浩 人口の高齢化が急速に進行し、高齢化社会となっている。医療においても、高齢者が診療やリハビリテーションの対象となる機会が多く、老化や老年病に対する十分な理解がますます必要になっている。老年学では、理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、加齢に伴う心身の変化や、高齢者で問題になることが多い症候、病態、疾病について学ぶ。	1 後	30	1		○		○		
○			リハビリテーション概論	持田　誠 理学療法士として一般病院12年間の実務経験を活かした授業で、リハビリテーションの概念を理解する。また、学んできた基礎医学とリハビリテーションの関連についても取り組む	1 通	60	2		○		○		
○			多職種連携論	大和田　和彦 患者・家族にとって最適の医療を効率的に提供するためには、職種間協働にもとづく「チーム医療」の推進が必要である。講義では、理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、医療の枠にとらわれず、これから健康・医療・福祉の専門職を目指すものとして、対象者を中心としたチーム医療の意義、多職種間のコミュニケーションの知識・技術およびその重要性を学ぶ。	3 前	30	2	○			○		
○			生活環境論	矢作　浩 生活環境は、障害の有無に関わらず人が生きていく上で最も身近で、基本的に存在するものである。障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するためには、社会的環境に広く目を向けることは重要である。生活環境論では、理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、そのための基本的な理念と知識について学習する。	2 前	30	2	○			○		

○			運動療法総論	山下 茂/矢作 浩/板子 伸子/市川 真莉那 それぞれが、理学療法士として一般病院、大学病院、介護老人保健施設、通所施設など合計10年以上の実務経験を活かした理学療法士の授業を中心に、機能障害に対する運動療法を学ぶ。	2 通	60	2		○		○		
○			基礎理学療法学	市川 真莉那/板子 伸子 理学療法士として総合病院5年間、診療所5年間の実務経験を活かした授業で、機能障害に対する運動療法を学ぶ実習で行う評価技術を実践できるようにする。	3 前	30	1		○		○		
○			臨床運動学	本持　英児 理学療法士として、一般病院12年間、介護老人保健施設を含め高齢者総合福祉施設5年間の実務経験を活かした授業で、基本動作をはじめ歩行のシークエンスでバイオメカニクスを学び、動作・歩行分析の理解を深めていく。	2 後	30	1		○		○		
○			理学療法管理学	大和田　和彦 理学療法士は、院外、施設外に視野を広げ地域全体のリハビリテーションに関わる機会が多くなるため、その拠点となるリハビリテーション科の組織を強化していかなければならない。理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、組織の能力を最大限に発揮させるための具体的な管理・教育について系統的に学び、リハビリテーション部門の管理について理解を深める。（栄養管理含む。）	3 前	30	2	○			○		
○			理学療法評価学Ⅰ	倉橋 智/大和田 和彦 理学療法を行う上で、対象者の障害を把握することは非常に重要である。 その手段の一つである検査測定についての種類、目的、方法について学ぶ。 本講義では、理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、関節可動域測定、Danielsらの徒手筋力検査、四肢長・周径を中心に実施し、その検査の目的や結果の解釈について理解する。 ・実技テスト・ミニテストを数回実施し、理解・到達度の確認を行う。	1 通	150	5		○		○		
○			理学療法評価学Ⅱ	増田　和彦 理学療法士として一般病院18年間の実務経験を活かした授業で、各症例情報をもとに基礎的知識を確認し、障害像から評価項目の立案、評価方法の検討、さらに正確性・再現性・妥当性のある理学療法評価の実施、評価結果の解釈について展開していく（画像含む）。	2 通	150	5		○		○		
○			整形障害理学療法Ⅰ	矢作　浩 機能障害に対する運動療法を学ぶ。整形障害領域の理学療法における基礎的な評価の意味と、理学療法プログラムの選択について、理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする（画像含む）。	2 後	30	1		○		○		

○			整形障害理学療法Ⅱ	矢作　浩 機能障害に対する運動療法を学ぶ整形障害理学療法Ⅰに引き続き、整形障害領域の理学療法における基礎的な評価の意味と、理学療法プログラムの選択について、理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする（画像含む）。	3 前	60	2		○		○		
○			神経障害理学療法Ⅰ	板子　伸子 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設3年間の実務経験を活かした授業で、解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする（画像含む）。	2 後	30	1		○		○		
○			神経障害理学療法Ⅱ	板子　伸子 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設3年間の実務経験を活かした授業で、神経障害理学療法Ⅰに引き続き解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする（画像含む）。	3 前	60	2		○		○		
○			内部障害理学療法Ⅰ	市川　真莉那 理学療法士として総合病院5年間、診療所5年間の実務経験を活かした授業で循環器、呼吸器、代謝系疾患による機能障害に対する理学療法を学ぶため、基礎的な解剖、生理、内科学の知識を確認しながら理学療法を実践できるよう学んでいく。この領域は生命に与える影響が大きい疾患が含まれ、リスク管理についても厳格に進めなければならないため、正しい知識の習得が目標となる（画像含む）。	2 通	60	2		○		○		
○			内部障害理学療法Ⅱ	市川　真莉那 理学療法士として総合病院5年間、診療所5年間の実務経験を活かした授業で内部障害理学療法Ⅰに引き続き、循環器、呼吸器、代謝系疾患による機能障害に対する理学療法を学ぶため、基礎的な解剖、生理、内科学の知識を確認しながら理学療法を実践できるよう学んでいく。この領域は生命に与える影響が大きい疾患が含まれ、リスク管理についても厳格に進めなければならないため、正しい知識の習得が目標となる（画像含む。排痰・喀痰吸引法含む）。	3 前	30	1		○		○		
○			物理療法学	倉橋 智 ・理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、基本的な物理刺激が、物理療法として人体にどのように働くのかを理解し、各治療法の適応・禁忌・注意点を理解する。 ・各治療機器を用いて実技を行い、治療を行えるようにする。	2 後	45	3	○			○		

○			義肢学	時田　幸之輔 理学療法士として総合病院5年間の実務経験を活かした授業。義肢が十分な機能を発揮し、患者のADLが向上するためには、各職種間のコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。義肢について医師や義肢装具士などと十分な議論を交わすことのできる能力は、作成する能力以上に求められる。授業では、様々な義肢の適応と特性、ソケットの適合と義肢のアライメントについて理解することを目標とする。	3 前	30	2	○			○		
○			装具学	増田　和彦 装具が十分な機能を発揮し、患者のADLが向上するためには、各職種間のコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。装具について医師や義肢装具士などと十分な議論を交わすことのできる能力は、作成する能力以上に求められる。理学療法士として一般病院18年間の実務経験を活かした授業で、様々な装具の適応と特性、セッティングについて理解することを目標とする。	2 後	30	2	○			○		
○			理学療法技術論	大和田　和彦 理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する。	4 通	420	14		○		○		
○			理学療法治療学	大和田　和彦 理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、外部講師として、各方面で臨床経験豊富な臨床理学療法士により、スポーツ疾患などを中心とした整形外科領域の理学療法治療と、高次脳機能障害を中心とした中枢神経系理学療法治療について学ぶ。	4 前	30	1		○		○		
○			卒業論文	板子　伸子 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設3年間の実務経験を活かした授業で、理学療法領域における研究法を学び、論文を作成する。	4 前	60	2		○		○		
○			日常生活活動学Ⅰ	倉橋　智 理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、リハビリテーションの重要な概念である在宅生活の環境の中で、ADLの概念とQOL・代表的な評価指標・ADL指導について理解を深める。	2 後	30	1		○		○		
○			日常生活活動学Ⅱ	本持　英児 理学療法士として一般病院12年間、介護老人保健施設を含め高齢者総合福祉施設5年間の実務経験を活かした授業で、リハビリテーションの重要な概念である在宅生活の環境の中で、その概念とQOLについて理解し、日常生活活動学Ⅰで学習した内容を基に各疾患毎のADL指導の実際について理解を深める。	3 前	45	3	○			○		

○			地域理学療法学Ⅰ	本持　英児 理学療法士として一般病院12年間、介護老人保健施設を含め高齢者総合福祉施設5年間の実務経験を活かした授業で、地域リハビリテーションの理念、歴史を理解し、介護保険法や関連法規を学び、地域で実践されているサービスについての理解を深めていく。	3 後	15	1	○			○		
○			地域理学療法学Ⅱ	大和田　和彦 理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、地域リハビリテーションの中で、理学療法士が行う実践活動を見学する。また、グループワークを通して、模擬症例に対する介護保険サービスの利用を考え、知識を整理する。	4 前	15	1	○			○		
○			臨床実習Ⅰ	増田　和彦 学外実習および理学療法士が担当する検査・測定の実技体験学習を実施する。一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、実習の包括的な指導および学習・評価を行う。	2 後	45	1			○		○	○
○			臨床実習Ⅱ	増田　和彦 学外実習および理学療法士が担当する検査・測定の実技体験学習を実施する。一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、実習の包括的な指導および学習・評価を行う。	2 通	45	1			○		○	○
○			臨床実習Ⅲ	増田　和彦 一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、実習指導者のもとで検査・測定の技術を確実にするとともに、患者のもつ諸問題のうち理学療法の適応となる問題を把握するため、評価結果から問題点を抽出できるようにすることを目的とする。また、理学療法士として必要な情報収集・記録・報告ができ、さらに医療専門職としての責任ある態度・行動を獲得することを目的とする。	3 後	315	7			○		○	○
○			臨床実習Ⅳ	増田　和彦 一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅰで実習した評価・問題点抽出に加え、目標設定・治療計画立案・基本的理学療法手段の実施という一連の流れができることを目的とする。また、臨床実習Ⅰで明らかになった自分の課題を認識して遂行するとともに、これまで学んだ知識・技術を応用することを目的とする。	3 後	315	7			○		○	○
○			臨床実習Ⅴ	増田　和彦 一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅱで実習した評価・問題点抽出に加え、目標設定・治療計画立案・基本的理学療法手段の実施という一連の流れを、内容を深めて実施することを目的とする。また、臨床実習Ⅱで明らかになった自分の課題を認識して遂行するとともに、これまで学んだ知識・技術を応用することを目的とする。	4 前	315	7			○		○	○
合計				47科目	3240時間								